

有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成24年4月1日
(第44期) 至 平成25年3月31日

株式会社 **高見沢サイバーテック**

東京都中野区中央2丁目48番5号

(E02025)

目次

頁

表紙	
第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1. 主要な経営指標等の推移	1
2. 沿革	3
3. 事業の内容	4
4. 関係会社の状況	5
5. 従業員の状況	6
第2 事業の状況	7
1. 業績等の概要	7
2. 生産、受注及び販売の状況	8
3. 対処すべき課題	8
4. 事業等のリスク	9
5. 経営上の重要な契約等	10
6. 研究開発活動	11
7. 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	12
第3 設備の状況	13
1. 設備投資等の概要	13
2. 主要な設備の状況	13
3. 設備の新設、除却等の計画	14
第4 提出会社の状況	15
1. 株式等の状況	15
(1) 株式の総数等	15
(2) 新株予約権等の状況	15
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	15
(4) ライツプランの内容	15
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	15
(6) 所有者別状況	15
(7) 大株主の状況	16
(8) 議決権の状況	16
(9) ストックオプション制度の内容	17
2. 自己株式の取得等の状況	17
3. 配当政策	18
4. 株価の推移	18
5. 役員の状況	19
6. コーポレート・ガバナンスの状況等	23
第5 経理の状況	28
1. 連結財務諸表等	29
(1) 連結財務諸表	29
(2) その他	58
2. 財務諸表等	59
(1) 財務諸表	59
(2) 主な資産及び負債の内容	76
(3) その他	79
第6 提出会社の株式事務の概要	80
第7 提出会社の参考情報	81
1. 提出会社の親会社等の情報	81
2. その他の参考情報	81
第二部 提出会社の保証会社等の情報	82

[監査報告書]

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年6月28日
【事業年度】	第44期（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）
【会社名】	株式会社高見沢サイバネティックス
【英訳名】	TAKAMISAWA CYBERNETICS COMPANY, LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 高見澤 和夫
【本店の所在の場所】	東京都中野区中央2丁目48番5号
【電話番号】	03-3227-3361（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役財務経理本部長 中村 淑寛
【最寄りの連絡場所】	東京都中野区中央2丁目48番5号
【電話番号】	03-3227-3361（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役財務経理本部長 中村 淑寛
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜1丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第 40 期	第 41 期	第 42 期	第 43 期	第 44 期
決算年月	平成21年 3 月	平成22年 3 月	平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月
売上高 (千円)	9,953,549	9,754,211	10,754,521	10,354,198	9,886,812
経常利益又は経常損失 (△) (千円)	△245,010	158,184	193,352	133,168	45,014
当期純利益又は当期純損失 (△) (千円)	△1,441,748	136,800	224,309	153,202	72,336
包括利益 (千円)	—	—	195,467	175,980	123,643
純資産額 (千円)	955,495	1,114,023	1,309,490	1,458,152	1,554,820
総資産額 (千円)	10,551,298	10,693,320	10,830,243	11,818,640	12,036,637
1株当たり純資産額 (円)	106.23	123.87	145.60	162.17	172.92
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 (△) (円)	△160.29	15.21	24.94	17.04	8.04
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	9.1	10.4	12.1	12.3	12.9
自己資本利益率 (%)	—	12.28	18.51	11.07	4.80
株価収益率 (倍)	—	11.70	7.02	10.98	23.63
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	650,258	△505,378	601,948	331,414	653,597
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△207,494	△143,252	△330,469	△110,075	△150,397
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△331,578	△317,456	210,547	△118,235	31,166
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	2,346,535	1,380,448	1,862,474	1,965,577	2,499,945
従業員数 [外、平均臨時雇用者数] (人)	632 [—]	601 [—]	593 [—]	595 [—]	611 [—]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第40期の自己資本利益率及び株価収益率については、当期純損失を計上しているため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第 40 期	第 41 期	第 42 期	第 43 期	第 44 期
決算年月	平成21年 3 月	平成22年 3 月	平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月
売上高 (千円)	8,101,020	7,837,697	8,874,780	8,547,869	8,248,634
経常利益又は経常損失 (△) (千円)	△150,396	62,743	141,880	84,921	48,343
当期純利益又は当期純損失 (△) (千円)	△1,340,442	46,331	188,665	51,242	57,958
資本金 (千円)	700,700	700,700	700,700	700,700	700,700
発行済株式総数 (株)	9,050,000	9,050,000	9,050,000	9,050,000	9,050,000
純資産額 (千円)	1,383,672	1,451,245	1,612,051	1,657,436	1,736,059
総資産額 (千円)	9,807,194	10,260,039	10,198,429	10,804,970	10,477,873
1株当たり純資産額 (円)	153.83	161.36	179.24	184.33	193.07
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額) (円)	— (—)	— (—)	3 (—)	3 (—)	3 (—)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 (△) (円)	△149.03	5.15	20.98	5.70	6.45
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	14.1	14.1	15.8	15.3	16.6
自己資本利益率 (%)	—	3.19	12.32	3.13	3.42
株価収益率 (倍)	—	34.55	8.34	32.82	29.46
配当性向 (%)	—	—	14.3	52.7	46.5
従業員数 [外、平均臨時雇用者数] (人)	416 [—]	412 [—]	406 [—]	411 [—]	413 [—]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第40期の自己資本利益率及び株価収益率については、当期純損失を計上しているため記載しておりません。

又、第40期及び第41期の配当性向については、配当を行っていないため記載しておりません。

2 【沿革】

年月	事項
昭和44年10月	東京都品川区小山において(株)高見澤電機製作所の自販機事業部の一部が独立、(株)高見沢サイバネティックスを設立し、同時に営業所として大阪営業所を開設、自動券売機等の販売を開始。
昭和44年11月	本社を東京都新宿区西大久保へ移転。
昭和45年11月	(株)高見澤電機製作所より自販機の製造部門（現 長野第二工場）から販売までの一切を譲り受け製造販売会社となる。また、同時に(株)高見澤電機製作所のアフターサービス部門である高見澤電機サービス(株)を当社の100%子会社とし、高見沢サイバネティックスサービス(株)（現 (株)高見沢サービス）と社名変更。
昭和45年11月	本社を東京都新宿区西新宿へ移転。
昭和53年 8月	長野県南佐久郡臼田町（現 長野県佐久市）に長野第一工場を設置。
昭和56年 7月	長野営業所を開設。
昭和58年 9月	名古屋営業所を開設。
昭和62年 5月	福岡営業所を開設。
昭和63年12月	長野県南佐久郡臼田町（現 長野県佐久市）に長野第三工場を設置。
昭和63年12月	電子機器製造・販売の浅間エレクトラフト(株)（現 (株)高見沢メックス）の設立に伴い60%資本参加。
平成 5年12月	本社を東京都中野区中央へ移転。
平成 7年 3月	(株)高見沢メックスを100%子会社とする。
平成 8年10月	高崎営業所を開設。
平成 8年10月	長野第三工場敷地内に研究開発の拠点として技術棟を設置。
平成 8年10月	日本証券業協会に株式を店頭登録。
平成14年10月	本社地区技術部門の集約を目的とし、本社々屋及び本社用地を取得。
平成15年 4月	長野第一工場及び長野第三工場において環境マネジメントシステム国際規格 I S O 14001の認証を取得。
平成16年12月	日本証券業協会への店頭登録を取り消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場。
平成18年 3月	本社、長野第一工場及び長野第三工場において品質マネジメントシステム国際規格 I S O 9001の認証を取得。
平成22年 4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所 J A S D A Q（現 大阪証券取引所 J A S D A Q（スタンダード））に上場。
平成22年 9月	上海駐在員事務所（中華人民共和国上海市）を開設。

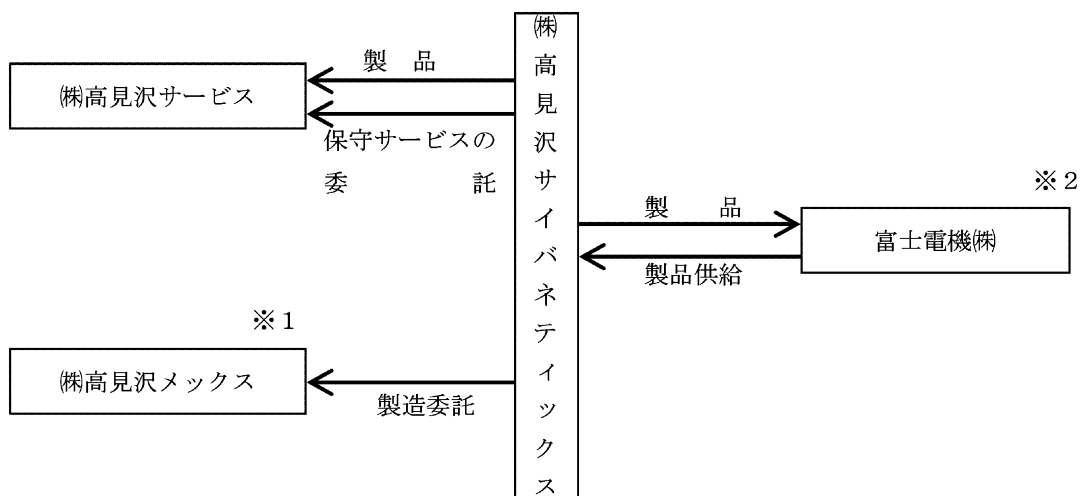
3 【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社（株式会社高見沢サイバネティックス）、子会社2社及びその他の関係会社1社により構成されており、事業は電子制御機器の製造、販売、設置、保守を行っております。

事業内容と当社及び関係会社の当該事業における位置付けは、次のとおりであります。

区分		主要な会社
電子制御機器	交通システム機器	当社が製造・販売しております。また、券売機等の設置工事・現地試験調整及び保守サービスについては、(株)高見沢サービスに委託しております。
	メカトロ機器	当社が製造・販売しております。なお、富士電機(株)には、ユニット等を販売しており、また同社は製品の一部を当社に供給しております。
	特機システム機器	当社が製造・販売しております。なお、防災計測システム等の製品の一部は(株)高見沢メックスに製造委託しております。 また、入場券発売機は、代理店として(株)高見沢サービスも販売を行っております。駐輪場管理システム、セキュリティゲートシステム、防災計測システム等の設置工事・現地試験調整及び保守サービスについては、(株)高見沢サービスに委託しております。

以上の企業集団等について図示すると次のとおりであります。



- (注) 無印 連結子会社
 ※1 非連結子会社で持分法非適用会社
 ※2 その他の関係会社

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有割合又は被所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) ㈱高見沢サービス (注) 1. 2. 4	東京都 品川区	90	駅務自動化システム、駐車場・駐輪場システム他、各種自動販売機、システム、自動制御機器の設置・保守及び販売	100	当社製品等の設置工事及び保守をしております。建物及び設備を賃貸しております。当社が債務保証を行っております。 役員の兼任あり
(その他の関係会社) 富士電機㈱ (注) 3	神奈川県 川崎市 川崎区	47,586	電力、官公需、交通、産業分野の社会インフラ向けプラント・システムの製造及び販売	被所有 25.3	当社製品の販売及び製品の供給を行っております。

(注) 1. 特定子会社に該当しております。

2. 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出していません。

3. 有価証券報告書を提出しております。

4. ㈱高見沢サービスについては、売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く。）の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	2,697,406千円
	(2) 経常利益	31,872千円
	(3) 当期純利益	47,352千円
	(4) 純資産額	206,010千円
	(5) 総資産額	2,558,403千円

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成25年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数（人）
電子制御機器	560
全社（共通）	51
合計	611

- (注) 1. 従業員数は、就業人員数（当社グループからグループ外への出向者は除き、グループ外から当社グループへの出向者を含むほか、嘱託及びパートタイマー等を含む。）であります。
2. 全社（共通）として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

平成25年3月31日現在

従業員数（人）	平均年令（才）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
413	41.4	18.5	4,429,124

セグメントの名称	従業員数（人）
電子制御機器	382
全社（共通）	31
合計	413

- (注) 1. 従業員数は、就業人員数（当社から社外への出向者は除き、社外から当社への出向者を含むほか、嘱託及びパートタイマー等を含む。）であります。
2. 平均年間給与（税込）は、基準外賃金及び賞与を含んでおります。
3. 全社（共通）として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

提出会社には、高見沢サイバネティックス労働組合が組織されており、平成25年3月31日現在における組合員数は163名で、上部団体には所属しておりません。また、連結子会社の㈱高見沢サービスには、労働組合が存在しておりません。

なお、労使関係は安定しております。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、年度の後半から大企業を中心に収益改善の兆しがでてくるなど一部で持ち直しの動きがみられましたが、依然として緩やかなデフレ状態であり、厳しい状況が続きました。

このような経済環境のもと、当連結グループは、駅務システムを中心とした「交通システム機器」、金融・汎用機器向ユニットを中心とした「メカトロ機器」、パーキングシステム・セキュリティシステム及び防災計測システムを中心とした「特機システム機器」の専門メーカーとして、鋭意営業活動の展開に注力してまいりました。また、技術部門及び生産部門におきましては、「コスト競争力強化活動プロジェクト」の活動を展開し、設計から製造までの過程に掛かる全てのコストの検証と削減に取り組んでまいりました。

このように諸施策を積極的に推進してまいりました結果、メカトロ機器部門は堅調に推移したものの、交通システム機器部門及び特機システム機器部門の売上高が前連結会計年度を下回ったことにより、当連結会計年度の売上高は98億8千6百万円（前連結会計年度比4.5%減）となりました。

また、損益面につきましては、継続して経費の圧縮、原価の低減に取り組んでまいりましたが、売上高の減少に加え、新製品の立ち上げ時期が重なり売上原価が上昇したことにより、営業利益は7千2百万円（同65.2%減）、経常利益は4千5百万円（同66.2%減）、当期純利益は7千2百万円（同52.8%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は、仕入債務の減少、有形固定資産の取得による支出等があったものの、売上債権の減少、短期借入金の増加、減価償却費の計上等により、前連結会計年度末と比べて5億3千4百万円増加し、24億9千9百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果により獲得した資金は、前連結会計年度に比べ3億2千2百万円増加し、6億5千3百万円（前年同期は3億3千1百万円の獲得）となりました。

これは主に、税金等調整前当期純利益が6千8百万円、減価償却費が3億1千9百万円、売上債権の減少額5億1千3百万円、たな卸資産の減少額1億2千6百万円、仕入債務の減少額3億1千4百万円を計上したこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果により使用した資金は、前連結会計年度に比べ4千万円増加し、1億5千万円（前年同期は1億1千万円の使用）となりました。

これは主に、投資有価証券の売却による収入1億1百万円、有形固定資産の取得による支出2億6千3百万円等を計上したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果により獲得した資金は、前連結会計年度に比べ1億4千9百万円増加し、3千1百万円（前年同期は1億1千8百万円の使用）となりました。

これは主に、短期借入金の純増加額2億円、長期借入れによる収入1億円、長期借入金の返済による支出6千4百万円、リース債務の返済による支出1億7千8百万円、配当金の支払額2千6百万円等を計上したことによるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結グループは、電子制御機器の製造販売及びこれら付随業務の単一セグメントであります。

また生産・販売品目は、広範囲かつ多種多様であり、同種の製品についても構造、形式は一様でなく、かつ仕様も多岐にわたるため記載を省略しております。

(2) 受注状況

当連結グループは、電子制御機器の製造販売及びこれら付随業務の単一セグメントであります。

また生産・販売品目は、広範囲かつ多種多様であり、見込生産品も多く、同種の製品についても構造、形式は一様でなく、かつ仕様も多岐にわたるため記載を省略しております。

(3) 販売実績

当連結会計年度の主要な販売実績を示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	前年同期比 (%)
電子制御機器 (千円)	9,886,812	95.5

(注) 1. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	
	金額 (千円)	割合 (%)	金額 (千円)	割合 (%)
ジェイアール東日本メカトロニクス㈱	1,152,376	11.1	1,760,539	17.8

(注) 2. 本表の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

今後のわが国経済は、経済政策への期待感から過度な円高傾向が修正され、株価が回復するなど改善の兆しがみられるものの、依然として海外景気の下振れリスクなどが存在しており、先行き不透明な状況が続くものと予想されます。このような状況のなか、当連結グループは、交通システム機器・メカトロ機器・特機システム機器の各部門において、次のとおり事業を展開してまいります。

交通システム機器部門におきましては、主力製品の出改札機器である新型自動券売機の拡販と、ホームドア事業の確立に努めてまいります。なお、ホームドア事業では、現在、国土交通省より鉄道技術開発費補助金の支援を受け、車両扉位置の相違やコスト低減等の課題に対応する「昇降バー式ホームドア」の開発を進めており、早期の実用化を目指してまいります。メカトロ機器部門におきましては、上海駐在員事務所を拠点として、アジアを中心とした海外市場への展開に取り組んでまいります。特機システム機器部門におきましては、パーキングシステム・セキュリティシステム・防災計測システムの各事業において新製品を投入することなどにより、既存市場の確保と新規市場への参入を目指して努めてまいります。

今後当連結グループは、独自のコア技術であるチケット (T)、紙幣 (B)、コイン (C)、カード (C) 処理技術を応用した高品質で高付加価値な製品及びシステムを提供し続けられるよう鋭意邁進する所存でございます。

4【事業等のリスク】

当連結グループの事業展開その他に関するリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を以下に記載しております。また、必ずしもそのようなリスク要因に該当しない事項についても、投資判断あるいは当連結グループの事業活動を理解するうえで、重要と考えられる事項については投資者に対する積極的な情報開示の観点から記載しております。

当連結グループは、これらのリスクが発生する可能性を認識したうえで発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。当社株式に関する投資判断は本項及び本書中の本項目以外の記載内容も併せて慎重に検討したうえで行われる必要があります。また、以下の記載は当社株式への投資に関連するリスクを全て網羅するものではありません。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当連結グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の連結会計年度における変動のリスク

過去3年間の連結売上高の上半期・下半期の実績は以下のとおりであります。

	平成22年度			平成23年度			平成24年度		
	上半期	下半期	合計	上半期	下半期	合計	上半期	下半期	合計
売上高 (百万円)	3,729	7,025	10,754	3,126	7,227	10,354	3,579	6,306	9,886
構成比(%)	34.7	65.3	100.0	30.2	69.8	100.0	36.2	63.8	100.0

当連結グループの主要取引先業界における製品の納入・設置時期は、下半期の特に連結会計年度末に集中する傾向にあります。従いまして、納入時期の遅れ等により売上がそのまま翌連結会計年度にずれ込み、当連結会計年度の業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(2) 新製品開発・技術革新におけるリスク

当連結グループでは「世の中に必要不可欠な会社を創造する」ことを社是に掲げ、常に市場のニーズに合った製品を提供するべく製品開発及び技術革新に取り組んでおります。ただし、開発期間の長期化、代替技術・商品の出現等の要因により、最適な時期に、最適な製品を市場に供給できない可能性があります。この場合、業績及び成長見通しに影響が及ぶことが考えられます。

(3) 価格競争に関するリスク

当連結グループが製品を展開している分野において、顧客からの納入価格引下げの要求は依然として強まる傾向にあり、価格競争が激しくなっております。価格下落が想定を大きく上回り、かつ、長期にわたった場合、業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

(4) 製品の品質に関するリスク

製品の品質維持・管理には当連結グループを挙げて取り組んでおりますが、予期しない事情により製品に不具合が生じる可能性があります。この場合、高額な改修費用等の発生、市場での信用の失墜等により、業績に影響を及ぼすことが考えられます。

(5) 知的財産におけるリスク

当連結グループが取得している知的財産権を第三者が無断使用して類似品を製造することで、損害を受けることがあります。また、当連結グループの製品が第三者の知的財産権を侵害するとの主張を受ける可能性もあります。これらの場合、当連結グループの主張が認められないときは、今後の事業展開及び業績に影響を及ぼすことが考えられます。

(6) OEMビジネスにおけるリスク

当連結グループでは、装置メーカー等の顧客にユニットを供給するOEMビジネスを展開しております。しかし、顧客への供給は、顧客の業績や経営方針の転換等、当連結グループが介入不可能な要因に大きく影響を受けることがあり、業績の悪化や在庫過多につながる可能性があります。

(7) 人材に関するリスク

当連結グループでは、チケット（T）、紙幣（B）、コイン（C）、カード（C）処理装置に関する高度な専門技術に精通した人材の確保・育成が不可欠であります。しかし、優秀な人材の確保・育成が計画通りに進まない場合、将来的には業績及び成長の見通しに影響を及ぼす可能性があります。

(8) 資材の調達におけるリスク

当連結グループの製品製造は、適時適価の資材調達が基本となっておりますが、資材業者の事故等により調達が不安定になる可能性があります。この場合、特定の業者以外から適時に代替品を入手することは難しく、製品供給が滞り、業績に影響を及ぼすことが考えられます。

(9) 自然災害等によるリスク

当連結グループは日本全国に事業所を設置しておりますが、これらの地域において大規模災害が発生した場合、物流機能の麻痺等により顧客への製品供給が滞り、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 重要な訴訟によるリスク

当連結グループを相手とした訴訟が発生し、当連結グループ側の主張・予測と異なる結果になった場合、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 退職給付債務のリスク

当連結グループの従業員退職給付費用及び債務を算出する際に設定している前提条件等が、実際の経済状況、その他の要因によって変動した場合、当連結グループの業績及び財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

(12) 資金調達におけるリスク

借入による資金調達は、金利等の市場環境・資金需給の影響を強く受けるため、これらの環境の変化により、当連結グループの財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

(1) 研究開発活動

当連結グループの事業である電子制御機器に係る研究開発活動は当社が行っており、現状においては、子会社では研究開発活動は行っておりません。

当連結グループの主力製品は、交通システム機器、メカトロ機器、特機システム機器を三本柱としており、これらに共通したチケット（T）、紙幣（B）、コイン（C）、カード（C）関連機器を中心に、多様化・高度化する市場ニーズを的確に捉え、それらに適応できる新製品を研究・開発して、タイムリーに提供することを主眼とした活動を行っております。

当社の研究開発活動の取り組み方法としては、①社内及び関係会社の社員から出された新製品開発提案②市場ニーズに基づき社内検討の結果、開発の必要性が認められた新製品③特定顧客から具体的な開発依頼のあった新製品④現在、生産・販売している既存製品のモデルチェンジの4つのルートにより提案され、審議を経て着手が決定された新製品・新技術の開発を行っております。

当連結会計年度に開発を完了した新製品の主なものは、次の通りであります。

品目		主要新製品
電子制御機器	交通システム機器	新型自動券売機 ホームドア
	メカトロ機器	硬貨一括投入ユニット
	特機システム機器	新型電磁ロック式自転車ラック

交通システム機器としては、ICカードに対応し、さらに機能強化した新型自動券売機の開発を行いました。自動定期券発行機としても運用可能なマルチ機能券売機にも発展できます。また、安全性を優先課題とし、低コスト・拡張性・設置工事の省力化に配慮したホームドアの開発を行いました。

メカトロ機器としては、各種自動販売機の硬貨投入口部に取り付けることにより、硬貨の一括投入を可能にするユニットの開発を行いました。

特機システム機器としては、堅固で故障し難く使い易いデザイン性に優れた電磁ロック式自転車ラックの開発を行いました。

(2) 研究開発の体制

当社の研究開発の体制は、FD事業推進室開発部、交通技術センター、テクニカルセンター、NTC本部開発部、T.P.P部及び品質保証センターで組織されており、全社的な協力体制の下で運営されています。

FD事業推進室開発部は、ホームドアのソフト・機構開発設計及び製品化を担当する部門であります。

交通技術センターは、交通系のソフト開発設計を担当する部門であります。

テクニカルセンターは、交通系の機構・電気、特機系及びメカトロ系のソフト・機構・電気開発設計及び製品化を担当する部門であります。

NTC本部開発部は、将来の新製品開発に必要な不可欠な基本技術の確立を目的とした基礎研究を行うと共に、地震計のソフト・電気開発設計及び製品化を担当する部門であります。

T.P.P部は、開発試作機の迅速な完成を目的として、開発製品の部材調達から組立、調整までを担当する部門であります。

品質保証センターは、開発製品に対して、当社制定の品質標準規格に基づき、機能、性能、信頼性、安全性等の総合的な評価試験を行い、基準に合格した製品であることを認証し、保証する部門であります。

以上の各部門が相互に協力しあうことによって、開発期間の短縮を図り、高性能、高品質な製品を開発し、市場ニーズに合致した新製品をタイミングよく顧客に供給できるような体制で研究開発を行っております。

なお、当連結会計年度に支出した研究開発費の総額は5億2百万円であり、連結売上高の5.1%に相当致します。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 重要な会計方針及び見積り

当連結グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に準拠して作成しております。この連結財務諸表の作成にあたって採用している重要な会計基準は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載されているとおりであります。

当連結グループの連結財務諸表の作成には、決算日における資産・負債の報告数値、報告期間における収入・費用の報告数値に影響を与える見積りや判断を必要とします。これら正確な見積り及び適正な判断・評価は、過去の実績や状況に応じ合理的と考えられる様々な要因等に基づき行っておりますが、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果はこれらと異なる場合があります。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

当連結グループは、永年培ってきたチケット（T）、紙幣（B）、コイン（C）、カード（C）処理技術を応用した「交通システム機器」「メカトロ機器」及び「特機システム機器」の専門メーカーとして鋭意営業活動を展開しております。

当連結会計年度におきましては、メカトロ機器部門は堅調に推移したものの、交通システム機器部門及び特機システム機器部門の売上高が前連結会計年度を下回ったことにより、当連結会計年度の売上高は98億8千6百万円（前連結会計年度比4.5%減）となりました。

売上総利益は、売上高の減少に加え、売上原価率が75.9%（同0.1%増）となったことにより、23億7千8百万円（同5.2%減）となりました。

売上総利益から販売費及び一般管理費を控除した営業利益は7千2百万円（同65.2%減）となりました。また、売上高営業利益率は0.7%（同1.3%減）となりました。

営業外収益から営業外費用を差し引いた純額は2千7百万円（同63.5%減）の費用計上となりました。

以上の結果、経常利益は4千5百万円（同66.2%減）となり、売上高経常利益率は0.5%（同0.8%減）となりました。

特別利益から特別損失を差し引いた純額は、2千3百万円の利益計上（前連結会計年度は5百万円の費用計上）となりました。

以上の結果、当期純利益は7千2百万円（同52.8%減）となりました。

また、1株当たり当期純利益は8円04銭（前連結会計年度は1株当たり17円04銭）となりました。

(3) 財政状態の分析

(資産)

資産の合計は120億3千6百万円（前連結会計年度末比2億1千7百万円増）となりました。

流動資産の減少は、現金及び預金が5億3千4百万円増加したものの、受取手形及び売掛金5億1千3百万円、商品及び製品1億2千6百万円の減少によるものが主因であります。

固定資産の増加は、リース資産2億8百万円の増加が主因であります。

(負債)

負債の合計は104億8千1百万円（同1億2千1百万円増）となりました。

流動負債の減少は、短期借入金の増加が2億5千2百万円あったものの、支払手形及び買掛金3億2千7百万円の減少によるものが主因であります。

固定負債の増加は、リース債務1億4千7百万円の増加が主因であります。

(純資産)

純資産の合計は15億5千4百万円（同9千6百万円増）となりました。

これは、当期純利益7千2百万円の計上、その他有価証券評価差額金5千1百万円の増加が主因であります。

(4) キャッシュ・フローの分析

キャッシュ・フローの分析につきましては、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フローの状況」に記載しております。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度における設備投資の総額は、601,898千円となり、主なものとして生産の増強、生産設備の合理化等を図るため電子制御機器に係る試験用機器・金型等に205,654千円、駐輪場管理システムに366,616千円の設備投資を実施致しました。

なお、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

2【主要な設備の状況】

当連結グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

平成25年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物及び構 築物 (千円)	工具器具備 品 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
長野第一工場 (注) 2 (長野県佐久市)	電子制御機 器	各種機器生 産設備	31,888	13,710	75,364 (9,659.44)	1,288	122,250	25
長野第三工場及び技術棟 (長野県佐久市)	電子制御機 器	各種機器生 産設備・研 究開発	185,199	300,698	145,374 (175,157.63)	5,452	636,723	222
本社 (東京都中野区)	会社統轄業 務 電子制御機 器	統轄業務・ 販売業務・ 研究開発	306,687	68,357	521,495 (710.72)	—	896,539	140
長野第二工場 (注) 3 (長野県佐久市)	電子制御機 器	—	6,146	244	13,737 (4,623.54)	—	20,128	—

(注) 1. 帳簿価額の金額には、消費税等を含めておりません。

2. 長野第一工場の一部は、非連結子会社である(株)高見沢メックスに貸与しております。

3. 長野第二工場は、連結子会社である(株)高見沢サービス及び非連結子会社である(株)高見沢メックスに貸与しております。

(2) 国内子会社

平成25年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
				建物及び構 築物 (千円)	工具器具備 品 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	リース資産 (千円)	合計 (千円)	
(株)高見沢サービス	本社他 (東京都 品川区)	電子制御 機器	各種自動販 売機の設 置・保守	6,739	92,611	48,344 (5,818.82)	728,157	875,853	198

(注) 1. 帳簿価額の金額には、消費税等を含めておりません。

2. 上記の他、主要なリース設備として、以下のものがあります。

平成25年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	年間リース料 (千円)
(株)高見沢サービス	本社他 (東京都品川区)	電子制御機器	工具器具備品 (リース)	59,672

3 【設備の新設、除却等の計画】

当連結グループは、経済動向、業績動向、資金計画などから期末時点では、具体的な設備計画を策定せず、設備投資計画の大綱を策定しております。

当連結会計年度後1年間の設備投資計画（新設・拡充）は585,000千円であり、その内訳は次のとおりであります。

セグメントの名称	平成25年3月末計画金額 (千円)	設備等の主な内容・目的	資金調達方法
電子制御機器	67,000	金型による原価低減、品質向上等	自己資金
	388,000	本社・工場で使用する器具類補充による生産合理化・効率化、開発期間の短縮等 社内システム整備による効率化等	自己資金
	130,000	当連結グループによる駐輪場管理システムの運営	リース
合計	585,000		

(注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 経常的な設備の更新のための除売却を除き、重要な設備の除売却の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	29,600,000
計	29,600,000

②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成25年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年6月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	9,050,000	9,050,000	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	9,050,000	9,050,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成21年6月26日 (注)	—	9,050,000	—	700,700	△361,005	722,424

(注) 会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金を減少し、その他資本剰余金へ振替えたものであります。

(6)【所有者別状況】

平成25年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満 株式の状 況(株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	10	3	18	1	1	507	540	—
所有株式数 (単元)	—	3,447	4	2,667	2	2	2,924	9,046	4,000
所有株式数の 割合(%)	—	38.11	0.04	29.48	0.02	0.02	32.33	100.00	—

(注) 1. 自己株式58,267株は「個人その他」に58単元及び「単元未満株式の状況」に267株を含めて記載しております。

2. 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が4単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成25年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
みずほ信託銀行株式会社退職 給付信託富士電機口再信託受 託者資産管理サービス信託銀 行株式会社	東京都中央区晴海1-8-12	2,276	25.15
富士通株式会社	神奈川県川崎市中原区上小田中4-1-1	900	9.94
株式会社ドッドウエル ビー・エム・エス	東京都中央区日本橋久松町12-8	663	7.33
高見沢サイバネティックス従 業員持株会	東京都中野区中央2-48-5	602	6.65
富士通フロンテック株式会社	東京都稲城市矢野口1776	500	5.52
I D E C株式会社	大阪府大阪市淀川区西宮原1-7-31	450	4.97
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区内幸町1-1-5	350	3.87
高見澤 和夫	東京都品川区	324	3.58
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	200	2.21
株式会社常陽銀行	茨城県水戸市南町2-5-5	200	2.21
計	—	6,465	71.44

(注) 1. 富士電機リテイルシステムズ株式会社が当社株式2,276千株につき、みずほ信託銀行株式会社を受託者として信託設定を行っていましたが、平成24年10月1日付で富士電機リテイルシステムズ株式会社が富士電機株式会社へ吸収合併され、富士電機株式会社が当該地位を承継しております。

なお、この異動に伴い、前事業年度末において主要株主であった富士電機リテイルシステムズ株式会社は、当事業年度末現在では主要株主ではなくなりました。また、前事業年度末において主要株主でなかった富士電機株式会社は、当事業年度末現在では主要株主となっております。

2. みずほ信託銀行株式会社退職給付信託富士電機口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社の所有株式数全てが信託業務に係る株式数であります。

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 58,000	—	単元株式数1,000株
完全議決権株式 (その他) (注)	普通株式 8,988,000	8,988	同上
単元未満株式	普通株式 4,000	—	—
発行済株式総数	9,050,000	—	—
総株主の議決権	—	8,988	—

(注) 「完全議決権株式 (その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が4,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数4個が含まれております。

②【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社高見沢サイバネティックス	東京都中野区中央 2-48-5	58,000	—	58,000	0.64
計	—	58,000	—	58,000	0.64

(9)【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (—)	—	—	—	—
保有自己株式数	58,267	—	58,267	—

(注) 当期間における保有自己株式には、平成25年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は創立以来、株主の皆様に対する利益の還元を経営の重要政策と認識しており、企業体質の一層の強化を図るために内部留保を確保しつつ、安定した配当を維持・継続していくことを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。当社は、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

当事業年度の配当につきましては、この基本方針に基づき、平成25年6月27日当社株主総会決議により、1株当たり3円の配当を実施することとしました。

内部留保資金につきましては、経営基盤の安定を図るための財務体質の強化に活用すると同時に今後の事業拡大のための諸政策に積極的に充当していく所存であります。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成25年6月27日 定時株主総会決議	26,975	3

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第40期	第41期	第42期	第43期	第44期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
最高(円)	390	300	301	198	212
最低(円)	190	148	149	150	170

(注) 最高・最低株価は、平成22年4月1日より大阪証券取引所JASDAQ市場におけるものであり、平成22年10月12日より大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。それ以前はジャスダック証券取引所におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年10月	平成24年11月	平成24年12月	平成25年1月	平成25年2月	平成25年3月
最高(円)	187	194	212	201	208	207
最低(円)	178	170	188	196	197	189

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役社長 (代表取締役)		高見澤 和夫	昭和30年11月27日生	昭和62年7月 当社入社 平成7年6月 ㈱高見沢サービス代表取締役社長 平成8年6月 当社取締役 平成11年6月 当社取締役副社長 平成12年6月 当社代表取締役社長 (現任)	(注) 4	324
専務取締役		有田 正實	昭和22年1月1日生	昭和47年4月 当社入社 平成12年4月 当社特機機器本部長 平成17年6月 当社取締役特機機器本部長 平成19年4月 当社取締役社会システム本部長 平成20年4月 当社常務取締役社会システム本部長兼SEセンター長 平成22年4月 当社常務取締役社会システム本部長兼業務センター長 平成23年4月 当社常務取締役 平成24年6月 当社専務取締役 (現任)	(注) 4	11
常務取締役	経営管理本部長	山口 英和	昭和25年12月11日生	昭和48年4月 富士電機製造㈱ (現富士電機㈱) 入社 平成14年4月 当社入社 平成19年4月 当社経営管理本部総合管理センター長 平成20年4月 当社経営管理本部長兼総合管理センター長 平成20年6月 当社取締役経営管理本部長兼総合管理センター長 平成21年4月 当社取締役経営管理本部長兼統括室長兼BP管理室長 平成22年4月 当社取締役経営管理本部長 平成24年6月 当社常務取締役経営管理本部長 (現任)	(注) 4	5
常務取締役	社会・産業システム本部長	辻川 秀邦	昭和24年6月1日生	昭和46年3月 当社入社 平成19年4月 当社社会システム本部メカトロ事業部長 平成20年6月 当社取締役社会システム本部メカトロ事業部長 平成21年4月 当社取締役社会システム本部メカトロ・特機事業部長 平成22年4月 当社取締役社会システム本部副本部長兼メカトロ・特機事業部長 平成23年4月 当社取締役社会・産業システム本部長 平成24年6月 当社常務取締役社会・産業システム本部長 (現任)	(注) 4	12
取締役	品質保証本部長	岩岡 修	昭和28年1月22日生	昭和51年4月 当社入社 平成19年4月 当社ものづくり本部品質保証センター長 平成20年4月 当社ものづくり本部長 平成20年6月 当社取締役ものづくり本部長 平成23年4月 当社取締役テクニカル本部長 平成25年4月 当社取締役品質保証本部長 (現任)	(注) 4	10

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	N T C 本部長	高見澤 海平	昭和25年6月6日生	昭和52年12月 当社入社 平成19年4月 当社ものづくり本部開発室長 平成20年4月 当社N T C 本部長兼開発室長 平成20年6月 当社取締役N T C 本部長兼開発室長 平成23年4月 当社取締役N T C 本部長 (現任)	(注) 4	15
取締役	財務経理本部長	中村 淑寛	昭和25年8月4日生	昭和48年4月 日鉄鉱業(株)入社 平成15年4月 当社入社 平成19年4月 当社経営管理本部統括室副室長 平成22年4月 当社経営管理本部副本部長兼統括室長 平成22年6月 当社取締役経営管理本部副本部長兼統括室長 平成23年4月 当社取締役財務経理本部長 (現任)	(注) 4	7
取締役	社会システム本部長兼交通技術センター長	竹田 一雄	昭和32年3月23日生	昭和54年4月 当社入社 平成17年4月 当社テクニカル本部副本部長 平成19年4月 当社ものづくり本部テクニカルセンター長 平成23年4月 当社社会システム本部長兼交通技術センター長 平成24年6月 当社取締役社会システム本部長兼交通技術センター長 (現任)	(注) 4	10
取締役	ものづくり本部長	花岡 伸一	昭和29年1月21日生	昭和51年4月 日本国有鉄道入社 昭和61年10月 当社入社 平成17年4月 当社生産本部副本部長 平成18年4月 当社生産本部長 平成19年4月 当社ものづくり本部生産センター長 平成20年4月 当社ものづくり本部副本部長兼生産センター長 平成21年4月 当社社会システム本部交通事業部長 平成23年4月 当社ものづくり本部長 平成24年6月 当社取締役ものづくり本部長 (現任)	(注) 4	5

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役		川井 義人	昭和34年9月20日生	昭和62年4月 富士電機冷機(株) (現富士電機(株)) 入社 平成19年7月 同社コールドチェーン事業本部営業推進本部企画部長 平成20年9月 同社コールドチェーン事業本部営業本部東日本支社販売支援部支社部長 平成21年1月 同社コールドチェーン事業本部営業本部東日本副支社長兼同支社販売支援部支社部長 平成21年4月 同社東京コールドチェーン支社副支社長兼同支社販売支援部支社部長 平成21年10月 同社東京支社副支社長兼同支社営業支援部支社部長 平成21年11月 同社通貨機器事業本部企画本部長兼同事業本部企画本部企画部長 平成22年4月 同社執行役員兼事業企画本部長兼通貨機器本部長兼通貨機器本部業務部長 平成23年4月 同社通貨機器本部長 平成24年4月 同社通貨機器本部長兼富士電機(株)食品流通事業本部通貨機器事業部長 平成24年6月 当社取締役 (現任) 平成24年10月 富士電機(株)食品流通事業本部通貨機器事業部長 平成25年4月 同社食品流通事業本部店舗システム事業部長 (現任)	(注) 4	—
取締役		今村 洋	昭和31年1月4日生	昭和56年4月 富士通(株)入社 平成13年10月 同社コンシューマトランザクション事業本部金融トランザクションシステム事業部第一技術部担当部長 平成13年12月 富士通機電(株) (現富士通フロンテック(株)) システム事業本部第一事業部第一技術部担当部長 平成15年4月 同社システム事業本部第一事業部第一技術部長 平成17年6月 同社システム事業本部第一事業部長 平成19年4月 同社システム事業本部長代理兼第一事業部長 平成22年6月 同社経営執行役金融システム事業本部長 平成23年6月 当社取締役 (現任) 平成24年4月 富士通フロンテック(株)経営執行役常務金融システム事業本部長 (現任)	(注) 4	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		浦邊 邦雄	昭和20年2月10日生	昭和46年3月 当社入社 平成8年4月 ㈱高見沢サービス入社 平成10年4月 同社サービスビジネス営業部長 平成16年5月 同社取締役サービスビジネス営業部長 平成17年4月 同社取締役サービスビジネス本部長 平成18年4月 同社取締役特機営業本部長 平成19年4月 同社取締役 平成19年6月 当社常勤監査役(現任)	(注) 5	17
常勤監査役		有村 猛	昭和20年9月4日生	昭和46年3月 当社入社 平成11年4月 当社知的財産部長 平成18年6月 当社常勤監査役(現任)	(注) 3	11
監査役		倉田 民男	昭和23年1月26日生	昭和45年4月 富士電機製造㈱(現富士電機㈱)入社 平成12年4月 同社財務計画室財務経理部長 平成15年10月 富士電機システムズ㈱(現富士電機㈱)執行役員常務兼経営管理室長 平成16年6月 同社取締役兼経営企画本部副本部長 平成17年6月 同社常務取締役兼経営企画本部副本部長 平成19年7月 同社常務取締役兼経営企画本部長 平成20年4月 富士電機リテイルシステムズ㈱(現富士電機㈱)顧問 平成20年6月 同社常勤監査役 平成20年6月 当社監査役(現任)	(注) 5	—
監査役		南 浩一	昭和37年7月24日生	昭和60年4月 富士電機㈱入社 平成8年6月 ユー・エス・富士電機㈱出向取締役 平成16年12月 富士電機システムズ㈱(現富士電機㈱)経営企画本部企画部長 平成19年7月 富士電機ホールディングス㈱(現富士電機㈱)総合企画室経営企画担当ゼネラルマネージャー 平成21年7月 富士電機リテイルシステムズ㈱(現富士電機㈱)管理本部企画部長 平成24年4月 同社経営企画本部企画部長兼富士電機㈱食品流通事業本部事業企画部長 平成24年10月 富士電機㈱食品流通事業本部事業企画部長(現任) 平成25年6月 当社監査役(現任)	(注) 5	—
計						427

- (注) 1. 取締役川井義人及び今村洋は、社外取締役であります。
2. 監査役倉田民男及び南浩一は、社外監査役であります。
3. 平成22年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
4. 平成24年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
5. 平成25年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

① 企業統治の体制

イ. 企業統治の体制の概要

当社は、独立役員を含む社外取締役・監査役会・内部監査部門が相互に連携を図り、経営に対する監督機能を強化することが、良質な経営の実現や株主・投資者等の皆様からの信頼確保につながるとの考えから、現状の体制を採用しております。具体的な内容は以下のとおりです。

・取締役会

取締役会は毎月1回開催し、業務執行状況の監督並びに経営上の重要事項について意思決定を行っております。

・監査役会

監査役会は毎月1回開催し、監査役間での情報交換を緊密にし、経営監視機能の強化を図っております。

また、監査役は取締役会・経営会議に出席し、取締役の業務執行を十分に監視できる体制を取っております。

・経営会議

当社は、経営方針の徹底及び業務遂行の迅速化と明確化を図るため、本部制を敷いております。取締役、監査役、各本部長及び室長・センター長・事業部長で構成している経営会議を毎月1回開催し、各本部から報告・議案提起された事項について審議のうえ、業務執行が決定されております。

ロ. 内部統制システムの整備の状況及びリスク管理体制の整備の状況

当社では、業務全般の内部統制を図るため、社長直属の内部監査室を設置し、各本部における経営基本計画の妥当性や実施の効果及び遂行度合い、進捗状況、コンプライアンス等について内部監査を実施し、業務に対する具体的な助言、勧告を行っております。

また、財務報告に係る内部統制を図るため、各部門の代表者からなる「内部統制推進プロジェクト」を組織し、内部統制の運用推進、評価検証を行っております。

② 内部監査及び監査役監査の状況

当社の監査役会は4名で構成し、社外監査役を半数の2名とすることにより、透明性を確保し、経営に対する監視・監査機能を果たしております。また、社外監査役は独立性を確保しております。

監査役監査にあたっては、内部監査を実施しております内部監査室2名との連携を強化し、内部監査情報の恒常的かつ網羅的把握を行うこととしております。

更に会計監査の適正性を担保するため、監査役は会計監査人による期中・期末監査を通して必要な報告を定期的に受けるなど、会計監査人との連携強化を図っております。また、「内部統制推進プロジェクト」の活動状況についても適時報告を受けております。

なお、社外監査役倉田民男氏は、富士電機株式会社の経理部門に在籍し決算手続きならびに財務諸表の作成等に従事した経験があり、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

③ 会計監査の状況

当社は、会計監査人として、新日本有限責任監査法人与監査契約を結んでおり、会計監査を受けております。当社の会計監査業務を執行した公認会計士は以下のとおりであります。

業務を執行した公認会計士の氏名	所属する監査法人名
指定有限責任社員 業務執行社員 吉澤 祥次	新日本有限責任監査法人
指定有限責任社員 業務執行社員 由良 知久	新日本有限責任監査法人
指定有限責任社員 業務執行社員 伊藤 正広	新日本有限責任監査法人

また、当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士5名及びその他6名であります。

④ 社外取締役及び社外監査役

イ. 社外取締役

当社の社外取締役は2名であります。

社外取締役川井義人氏は、富士電機㈱食品流通事業本部店舗システム事業部長であります。富士電機㈱は当社の主要株主（議決権比率25.32%）であり、当社との間で経常的な商取引を行っております。また、社外取締役今村洋氏は、富士通フロンテック㈱経営執行役常務金融システム事業本部長であります。同社は当社の大株主（議決権比率5.56%）であり、同社の親会社である富士通㈱を通じて当社との間で経常的な商取引を行っております。両名と当社との間に特別な利害関係はありません。

当社は、社外取締役2名が取締役会に出席し、当社事業分野における豊富な経験と幅広い見識を活かして適宜発言していただくことにより、経営に関する監督機能の強化、内部統制の有効性の向上につながっているものと認識しております。

社外取締役及び監査役を選任するにあたり、当社からの独立性に関する基準又は方針についての定めはしていませんが、選任にあたっては、大阪証券取引所が「JASDAQにおける有価証券上場規程に関する取扱要領」に規定する判断基準を候補者選定条件のひとつとして参考にしております。なお、当社は今村洋氏を大阪証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

ロ. 社外監査役

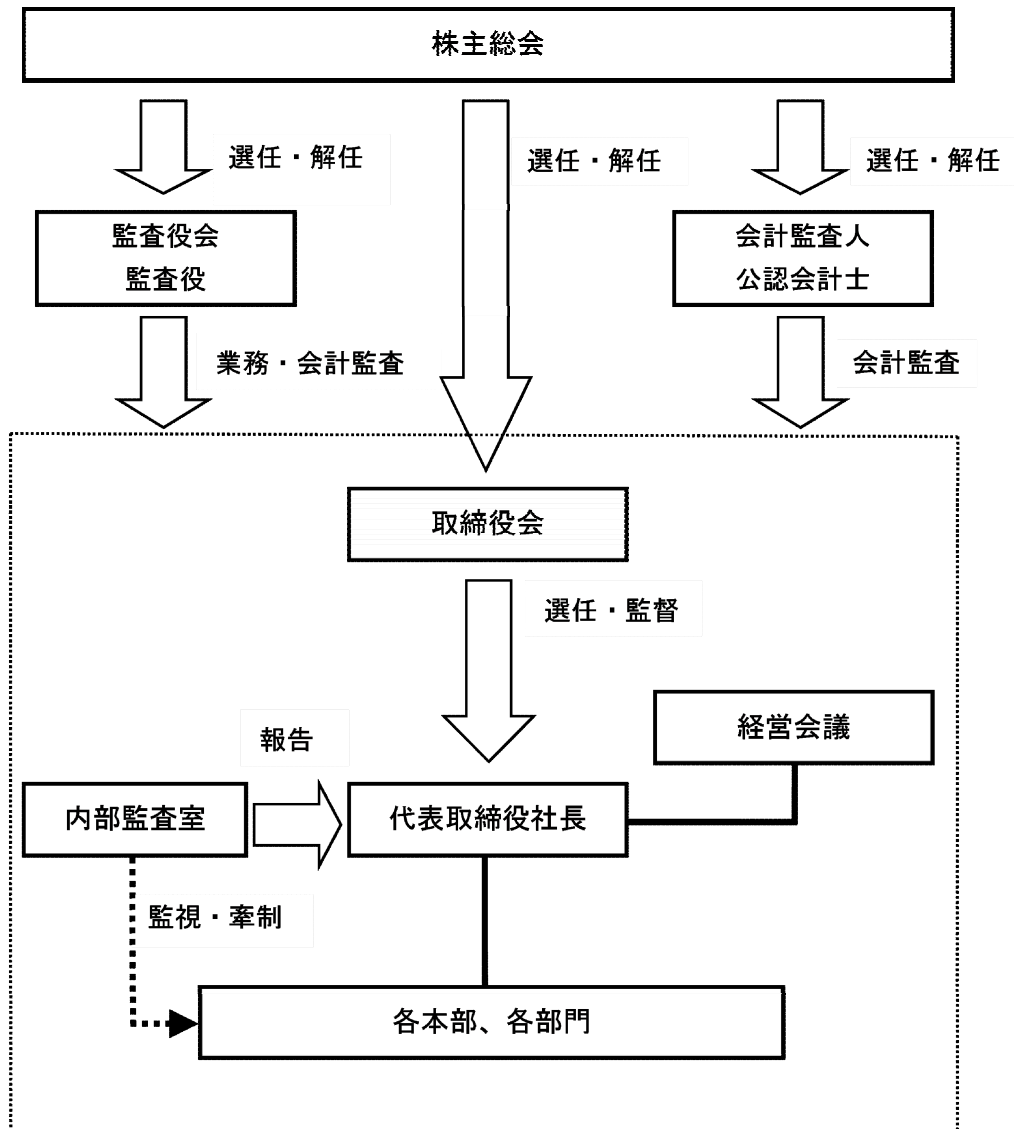
当社の社外監査役は2名であります。

社外監査役倉田民男氏は、富士電機リテイルシステムズ(株) (現富士電機(株)) 元常勤監査役であります。また、社外監査役南浩一氏は、富士電機(株)食品流通事業本部事業企画部長であります。同社は当社の主要株主(議決権比率25.32%)であり、当社との間で経常的な商取引を行っております。両名と当社との間に特別な利害関係はありません。

なお、両名とも独立性を確保しております。

また、社外監査役は取締役会に出席し、業務の執行状況を把握及び監視するとともに、適時、適切な提言・助言を行っております。また、監査役会にも出席し、経営監視機能の強化を目的として、監査役間で緊密に情報交換を行っております。

《業務執行・監査及び内部統制の仕組み(模式図)》



⑤ 役員報酬等

イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

当期における当社取締役及び監査役に対する役員報酬は以下のとおりであります。

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額 (千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	71,455	55,659	—	—	15,796	10
監査役 (社外監査役を除く)	17,490	15,365	—	—	2,125	2
社外役員	1,920	1,920	—	—	—	5

(注) 1. 上記には、平成24年6月28日開催の第43回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役2名（うち社外取締役1名）の在任中の報酬等の額が含まれております。

2. 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

3. 上記支給額のほか、平成24年6月28日開催の第43回定時株主総会の決議に基づき、役員退職慰労金を退任取締役1名に対し22,979千円支給しております。

ロ. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社は役員の報酬の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

⑥ 株式の保有状況

イ. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

16銘柄 319,658千円

ロ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
京成電鉄(株)	96,294	61,628	企業間関係強化のため
西日本旅客鉄道(株)	15,000	49,875	企業間関係強化のため
(株)常陽銀行	120,000	45,480	株式安定化のため
I D E C(株)	55,000	45,100	企業間関係強化のため
中央三井トラスト・ホールディングス(株)	70,244	18,544	株式安定化のため
(株)八十二銀行	35,000	17,080	株式安定化のため
京阪電気鉄道(株)	24,610	9,696	企業間関係強化のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	28,400	3,834	株式安定化のため
東京急行電鉄(株)	9,234	3,629	企業間関係強化のため
(株)バンダイナムコホールディングス	2,200	2,626	企業間関係強化のため
(株)りそなホールディングス	1,000	381	株式安定化のため

当事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)常陽銀行	120,000	63,240	株式安定化のため
京成電鉄(株)	48,154	48,298	企業間関係強化のため
I D E C(株)	55,000	45,705	企業間関係強化のため
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	70,244	31,118	株式安定化のため
西日本旅客鉄道(株)	5,000	22,575	企業間関係強化のため
(株)八十二銀行	35,000	19,915	株式安定化のため
京阪電気鉄道(株)	26,446	11,054	企業間関係強化のため
東京急行電鉄(株)	12,276	8,704	企業間関係強化のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	28,400	5,651	株式安定化のため
(株)りそなホールディングス	1,000	488	株式安定化のため

⑦ 取締役の定数

当社の取締役は15名以内とする旨を定款で定めております。

⑧ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款で定めております。

⑨ 株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

イ. 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

ロ. 自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨定款で定めております。

⑩ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）
提出会社	29,800	—	29,800	—
連結子会社	—	—	—	—
計	29,800	—	29,800	—

② 【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

監査日数等を勘案したうえで決定しております。

第5【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更についての的確に対応するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しており、又各種団体の主催する会計基準等の講習会へ参加しております。

1 【連結財務諸表等】
 (1) 【連結財務諸表】
 ① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,965,577	2,499,945
受取手形及び売掛金	※3 4,829,936	※3 4,316,522
リース投資資産	29,258	25,056
商品及び製品	438,596	312,029
仕掛品	507,181	510,383
原材料及び貯蔵品	746,091	743,157
繰延税金資産	190,324	209,226
その他	116,849	140,291
流動資産合計	8,823,816	8,756,612
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	542,252	537,220
工具、器具及び備品（純額）	380,902	453,453
土地	804,317	804,317
リース資産（純額）	566,201	775,182
その他（純額）	6,761	6,740
有形固定資産合計	※1 2,300,435	※1 2,576,913
無形固定資産	19,366	18,979
投資その他の資産		
投資有価証券	※2 341,655	※2 346,785
繰延税金資産	16,663	2,455
その他	331,836	349,306
貸倒引当金	△15,133	△14,415
投資その他の資産合計	675,022	684,131
固定資産合計	2,994,824	3,280,024
資産合計	11,818,640	12,036,637
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※3 2,363,535	※3 2,036,104
短期借入金	4,340,500	4,593,000
リース債務	154,019	226,070
未払法人税等	17,327	24,080
賞与引当金	100,283	85,945
その他	420,936	398,442
流動負債合計	7,396,603	7,363,642
固定負債		
長期借入金	68,000	52,000
リース債務	462,853	610,350
繰延税金負債	—	1,986
退職給付引当金	2,110,040	2,110,418
役員退職慰労引当金	144,937	148,640
資産除去債務	23,251	27,479
その他	154,802	167,298
固定負債合計	2,963,885	3,118,174
負債合計	10,360,488	10,481,816

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	700,700	700,700
資本剰余金	722,424	722,424
利益剰余金	59,031	104,393
自己株式	△41,359	△41,359
株主資本合計	1,440,796	1,486,158
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	17,355	68,662
その他の包括利益累計額合計	17,355	68,662
純資産合計	1,458,152	1,554,820
負債純資産合計	11,818,640	12,036,637

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	
	売上高		10,354,198	
売上原価	※1	7,844,666	※1	7,508,257
売上総利益		2,509,531		2,378,554
販売費及び一般管理費	※2,3	2,302,290	※2,3	2,306,470
営業利益		207,241		72,084
営業外収益				
受取利息		242		250
受取配当金		7,329		7,159
不動産賃貸料		8,998		8,400
補助金収入		—		49,997
その他		20,878		12,623
営業外収益合計		37,449		78,431
営業外費用				
支払利息		96,543		90,703
不動産賃貸費用		12,028		10,874
その他		2,949		3,924
営業外費用合計		111,521		105,501
経常利益		133,168		45,014
特別利益				
固定資産売却益		160		346
投資有価証券売却益		—		31,126
特別利益合計		160		31,472
特別損失				
固定資産除売却損	※4	5,731	※4	7,919
特別損失合計		5,731		7,919
税金等調整前当期純利益		127,596		68,567
法人税、住民税及び事業税		11,691		18,878
法人税等調整額		△37,297		△22,648
法人税等合計		△25,606		△3,769
少数株主損益調整前当期純利益		153,202		72,336
当期純利益		153,202		72,336

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	153,202	72,336
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	22,777	51,306
その他の包括利益合計	※ 22,777	※ 51,306
包括利益	175,980	123,643
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	175,980	123,643

③【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	700,700	700,700
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	700,700	700,700
資本剰余金		
当期首残高	722,424	722,424
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	722,424	722,424
利益剰余金		
当期首残高	△67,190	59,031
当期変動額		
剰余金の配当	△26,981	△26,975
当期純利益	153,202	72,336
当期変動額合計	126,221	45,361
当期末残高	59,031	104,393
自己株式		
当期首残高	△41,021	△41,359
当期変動額		
自己株式の取得	△338	—
当期変動額合計	△338	—
当期末残高	△41,359	△41,359
株主資本合計		
当期首残高	1,314,913	1,440,796
当期変動額		
剰余金の配当	△26,981	△26,975
当期純利益	153,202	72,336
自己株式の取得	△338	—
当期変動額合計	125,883	45,361
当期末残高	1,440,796	1,486,158
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	△5,422	17,355
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	22,777	51,306
当期変動額合計	22,777	51,306
当期末残高	17,355	68,662
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	△5,422	17,355
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	22,777	51,306
当期変動額合計	22,777	51,306
当期末残高	17,355	68,662

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
純資産合計		
当期首残高	1,309,490	1,458,152
当期変動額		
剰余金の配当	△26,981	△26,975
当期純利益	153,202	72,336
自己株式の取得	△338	—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	22,777	51,306
当期変動額合計	148,661	96,668
当期末残高	1,458,152	1,554,820

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	127,596	68,567
減価償却費	310,127	319,753
退職給付引当金の増減額(△は減少)	4,811	378
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	22,552	3,703
賞与引当金の増減額(△は減少)	△43,583	△14,338
貸倒引当金の増減額(△は減少)	964	—
受取利息及び受取配当金	△7,572	△7,410
支払利息	96,543	90,703
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△31,126
有形固定資産除売却損益(△は益)	5,571	7,573
売上債権の増減額(△は増加)	△460,315	513,414
たな卸資産の増減額(△は増加)	△277,337	126,299
仕入債務の増減額(△は減少)	641,144	△314,407
その他	16,059	△15,783
小計	436,563	747,326
利息及び配当金の受取額	7,572	7,410
利息の支払額	△101,106	△89,531
法人税等の支払額	△11,615	△11,607
営業活動によるキャッシュ・フロー	331,414	653,597
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△3,950	△3,982
投資有価証券の売却による収入	—	101,220
有形固定資産の取得による支出	△79,563	△263,873
無形固定資産の取得による支出	△29,075	△1,711
その他	2,513	17,949
投資活動によるキャッシュ・フロー	△110,075	△150,397
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△60,000	200,500
長期借入れによる収入	100,000	100,000
長期借入金の返済による支出	—	△64,000
リース債務の返済による支出	△131,247	△178,369
自己株式の取得による支出	△338	—
配当金の支払額	△26,649	△26,964
財務活動によるキャッシュ・フロー	△118,235	31,166
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	103,103	534,367
現金及び現金同等物の期首残高	1,862,474	1,965,577
現金及び現金同等物の期末残高	* 1,965,577	* 2,499,945

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 1社

連結子会社名

㈱高見沢サービス

(2) 非連結子会社の名称等

非連結子会社名

㈱高見沢メックス

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は小規模であり、総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないので連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用していない非連結子会社㈱高見沢メックスは、当期純損益及び利益剰余金等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

1) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

② たな卸資産

1) 商品・製品

個別原価法及び総平均法による原価法（連結貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

2) 半製品・原材料

総平均法による原価法（連結貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

3) 仕掛品

個別原価法（連結貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

4) 貯蔵品

最終仕入原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法）を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3～50年

工具器具備品 2～20年

② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

③ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額のうち当連結会計年度負担額を計上しております。

③ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

④ 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(5) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

① 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日）
- ・「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日）

(1) 概要

数理計算上の差異及び過去勤務費用は、連結貸借対照表の純資産の部において税効果を調整した上で認識し、積立状況を示す額を負債又は資産として計上する方法に改正されました。また、退職給付見込額の期間帰属方法について、期間定額基準のほか給付算定式基準の適用が可能となったほか、割引率の算定方法が改正されました。

(2) 適用予定日

平成26年3月期の年度末に係る連結財務諸表から適用します。ただし、退職給付見込額の期間帰属方法の改正については、平成27年3月期の期首から適用します。なお、当該会計基準等には経過的な取り扱いが定められているため、過去の期間の財務諸表に対しては遡及適用しません。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「退職給付に関する会計基準」等の適用により、当社グループの連結財務諸表に重要な影響を及ぼす見込みです。連結貸借対照表においては、主として数理計算上の差異を発生時に認識するため純資産が変動する見込みですが、影響額については現時点で評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「受取補償金」は、営業外収益の総額の100分の10以下となったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「受取補償金」に表示していた12,763千円は、「その他」として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

※1. 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
	5,120,453千円	5,371,115千円

※2. 非連結子会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
投資有価証券	10,000千円	10,000千円

※3. 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、当連結会計年度の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当連結会計年度末日満期手形の金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
受取手形	43,172千円	10,612千円
支払手形	125,278	58,709

(連結損益計算書関係)

※1. 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
22,362千円	19,190千円

※2. 販売費及び一般管理費の主要な費目と金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
給料	793,791千円	848,709千円
試験研究費	520,902	502,347
賞与引当金繰入額	33,928	29,888
退職給付費用	68,746	67,036
役員退職慰労引当金繰入額	24,613	26,683

※3. 研究開発費の総額

一般管理費に含まれる研究開発費

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
	520,902千円	502,347千円

※4. 固定資産除売却損の主なもの、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
建物及び構築物	363千円	2,154千円
工具器具備品	4,832	5,400
リース資産	536	310
その他	—	54
計	5,731	7,919

(連結包括利益計算書関係)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	24,468千円	102,372千円
組替調整額	—	△31,126
税効果調整前	24,468	71,246
税効果額	△1,690	△19,940
その他有価証券評価差額金	22,777	51,306
その他の包括利益合計	22,777	51,306

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数(株)	当連結会計年度増加株式数(株)	当連結会計年度減少株式数(株)	当連結会計年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	9,050,000	—	—	9,050,000
合計	9,050,000	—	—	9,050,000
自己株式				
普通株式	56,310	1,957	—	58,267
合計	56,310	1,957	—	58,267

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加1,957株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	26,981	3	平成23年3月31日	平成23年6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	26,975	利益剰余金	3	平成24年3月31日	平成24年6月29日

当連結会計年度(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数(株)	当連結会計年度増加株式数(株)	当連結会計年度減少株式数(株)	当連結会計年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	9,050,000	—	—	9,050,000
合計	9,050,000	—	—	9,050,000
自己株式				
普通株式	58,267	—	—	58,267
合計	58,267	—	—	58,267

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	26,975	3	平成24年3月31日	平成24年6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	26,975	利益剰余金	3	平成25年3月31日	平成25年6月28日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
現金及び預金勘定	1,965,577千円	2,499,945千円
現金及び現金同等物	1,965,577	2,499,945

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

①リース資産の内容

有形固定資産

主として、駐輪場管理システム(工具器具備品)であります。

②リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

	前連結会計年度(平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具器具備品	406,256千円	313,721千円	92,534千円
無形固定資産	10,076	9,182	893
合計	416,332	322,904	93,427

	当連結会計年度(平成25年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具器具備品	178,023千円	139,845千円	38,177千円
無形固定資産	一千円	一千円	一千円
合計	178,023	139,845	38,177

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
1年内	77,686千円	42,256千円
1年超	24,200	—
合計	101,887	42,256

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支払利息相当額及び減損損失

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
支払リース料	126,882千円	93,371千円
減価償却費相当額	116,439	86,800
支払利息相当額	6,062	2,759

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(5) 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

(金融商品関係)

前連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当連結グループは、資金計画に基づいて必要な資金を銀行の借入により調達しております。また、当連結グループではデリバティブ取引は実施しておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は業務上の関係を有する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、主に5ヶ月以内の支払期日であります。

借入金には主に運転資金に係る資金調達であり、金利の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスクの管理

営業債権については債権管理規程及び与信管理規程に従い、各担当部署において取引先ごとの状況をモニタリングし、期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の債権管理規程及び与信管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

②市場リスクの管理

投資有価証券については定期的に時価を把握し、保有状況を見直しております。

③資金調達に係る流動性リスクの管理

当社は各担当部署からの報告に基づき、適時に資金計画を作成・更新するとともに手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。また、連結子会社においても、各担当部署からの報告に基づき適時に資金計画を作成・更新し、手許流動性のリスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には市場価格に基づく価額のほか、市場価格のない場合には合理的に算定された価額が含まれております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成24年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません(注)2.参照)。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,965,577	1,965,577	—
(2) 受取手形及び売掛金	4,829,936	4,829,936	—
(3) 投資有価証券 その他有価証券	268,746	268,746	—
資産計	7,064,260	7,064,260	—
(1) 支払手形及び買掛金	2,363,535	2,363,535	—
(2) 短期借入金	4,308,500	4,308,500	—
負債計	6,672,035	6,672,035	—

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券 その他有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、並びに(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)
非上場株式	72,909

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
※現金及び預金	1,925,773	—	—	—
受取手形及び売掛金	4,829,936	—	—	—
合計	6,755,709	—	—	—

※現金39,804千円は含まれておりません。

投資有価証券については、その他有価証券のうち満期があるものがないため、上表には含めておりません。

4. 短期借入金、長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超2 年以内 (千円)	2年超3 年以内 (千円)	3年超4 年以内 (千円)	4年超5 年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	4,308,500	—	—	—	—	—
長期借入金	32,000	32,000	36,000	—	—	—
リース債務	154,019	156,417	136,061	89,363	65,000	16,009

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当連結グループは、資金計画に基づいて必要な資金を金融機関からの借入により調達しております。また、当連結グループではデリバティブ取引は実施しておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は業務上の関係を有する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、主に5ヶ月以内の支払期日であります。

借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、償還日は最長で決算日後7年であります。このうち一部は、金利の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスクの管理

営業債権については債権管理規程及び与信管理規程に従い、各担当部署において取引先ごとの状況をモニタリングし、期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の債権管理規程及び与信管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

②市場リスクの管理

投資有価証券については定期的に時価を把握し、保有状況を見直しております。

③資金調達に係る流動性リスクの管理

当社は各担当部署からの報告に基づき、適時に資金計画を作成・更新するとともに手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。また、連結子会社においても、各担当部署からの報告に基づき適時に資金計画を作成・更新し、手許流動性のリスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には市場価格に基づく価額のほか、市場価格のない場合には合理的に算定された価額が含まれております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成25年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2. 参照）。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	2,499,945	2,499,945	—
(2) 受取手形及び売掛金	4,316,522	4,316,522	—
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	273,875	273,875	—
資産計	7,090,343	7,090,343	—
(1) 支払手形及び買掛金	2,036,104	2,036,104	—
(2) 短期借入金	4,509,000	4,509,000	—
(3) リース債務（固定負債）	610,350	593,683	△16,666
負債計	7,155,455	7,138,788	△16,666

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項
資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券 その他有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、並びに(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) リース債務（固定負債）

時価については、元利金の合計額を、新規に同様のリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額（千円）
非上場株式	72,909

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
※現金及び預金	2,455,169	—	—	—
受取手形及び売掛金	4,316,522	—	—	—
合計	6,771,691	—	—	—

※現金44,776千円は含まれておりません。

投資有価証券については、その他有価証券のうち満期があるものがないため、上表には含めておりません。

4. 短期借入金、長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超2 年以内 (千円)	2年超3 年以内 (千円)	3年超4 年以内 (千円)	4年超5 年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	4,509,000	—	—	—	—	—
長期借入金	84,000	52,000	—	—	—	—
リース債務	226,070	198,984	154,663	130,822	79,225	46,654

(有価証券関係)

I 前連結会計年度(平成24年3月31日)

1. その他有価証券

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	119,408	92,434	26,974
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	119,408	92,434	26,974
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	149,337	157,265	△7,927
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	149,337	157,265	△7,927
合計		268,746	249,699	19,047

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額62,909千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)
該当事項はありません。

3. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、その他有価証券で時価のある株式について減損処理を行ったものはありません。

なお、当該有価証券の減損にあたっては、個々の銘柄の時価が取得原価に比べて30%以上下落した場合には「著しく下落した」とし、時価の推移及び発行体の財政状態等の検討により時価の回復可能性を総合的に判断しております。

Ⅱ 当連結会計年度（平成25年3月31日）

1. その他有価証券

	種類	連結貸借対照表計上額（千円）	取得原価（千円）	差額（千円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	271,851	181,342	90,509
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	271,851	181,342	90,509
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	2,024	2,240	△216
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	2,024	2,240	△216
合計		273,875	183,582	90,293

(注) 非上場株式（連結貸借対照表計上額62,909千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

区分	売却額（千円）	売却益の合計額（千円）	売却損の合計額（千円）
株式	101,220	31,126	—
債券	—	—	—
その他	—	—	—
合計	101,220	31,126	—

3. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、その他有価証券で時価のある株式について減損処理を行ったものはありません。

なお、当該有価証券の減損にあたっては、個々の銘柄の時価が取得原価に比べて30%以上下落した場合には「著しく下落した」とし、時価の推移及び発行体の財政状態等の検討により時価の回復可能性を総合的に判断しております。

（デリバティブ取引関係）

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）及び当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

当連結グループは、デリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度及び確定給付企業年金制度、また確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けております。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
(1) 退職給付債務 (千円)	△2,503,522	△2,770,127
(2) 年金資産 (千円)	457,166	527,819
(3) 未積立退職給付債務 (1)+(2) (千円)	△2,046,356	△2,242,308
(4) 未認識数理計算上の差異 (千円)	△63,684	131,890
(5) 未認識過去勤務債務 (債務の減額) (千円)	—	—
(6) 連結貸借対照表計上額純額 (3)+(4)+(5) (千円)	△2,110,040	△2,110,418
(7) 前払年金費用 (千円)	—	—
(8) 退職給付引当金 (6)-(7) (千円)	△2,110,040	△2,110,418

(注) 連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
(1) 勤務費用 (千円)	146,337	140,351
(2) 利息費用 (千円)	39,514	41,174
(3) 期待運用収益 (千円)	△4,924	△5,177
(4) 数理計算上の差異の費用処理額 (千円)	△8,729	△8,851
(5) 確定拠出年金への掛金支払額 (千円)	29,421	29,710
(6) 退職給付費用(1)+(2)+(3)+(4)+(5) (千円)	201,620	197,208

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「(1) 勤務費用」に計上しております。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法
期間定額基準

(2) 割引率

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
2.0%	1.0%

(3) 期待運用収益率

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
2.5%	2.0%

(4) 数理計算上の差異の処理年数

5年 (各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。)

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	753,477千円	753,904千円
税務上の繰越欠損金	319,975	286,239
未払事業税等	5,074	5,350
棚卸資産評価損	132,384	134,350
役員退職慰労引当金	51,657	52,975
賞与引当金	38,118	32,668
投資有価証券評価損	59,942	66,091
貸倒引当金	5,254	5,138
一括償却資産	1,784	3,161
資産除去債務	9,725	10,912
連結会社間内部利益消去	119,048	109,621
その他	22,533	20,795
繰延税金資産小計	1,518,971	1,481,206
評価性引当額	△1,304,137	△1,242,705
繰延税金資産合計	214,834	238,501
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	1,691	21,631
資産除去債務に対応する除去費用	6,155	7,174
繰延税金負債合計	7,846	28,805
繰延税金資産(負債)の純額	206,988	209,696

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
流動資産－繰延税金資産	190,324千円	209,226千円
固定資産－繰延税金資産	16,663	2,455
固定負債－繰延税金負債	—	△1,986

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
法定実効税率 (調整)	41.0%	38.0%
住民税均等割等	9.2	14.8
交際費等永久に損金に算入されない項目	5.1	9.1
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△1.0	△1.7
評価性引当額の増減	△83.0	△79.1
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	13.2	—
連結調整項目	△4.1	16.3
その他	△0.5	△2.9
税効果会計適用後の法人税等の負担率	△20.1	△5.5

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

1. 当該資産除去債務の概要

駐輪場システム及び営業所の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から30年と見積り、割引率は2.266%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

3. 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
期首残高	22,074千円	23,251千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	1,199	3,976
時の経過による調整額	486	587
資産除去債務の履行による減少額	△509	△335
期末残高	23,251	27,479

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

当連結グループは、電子制御機器の製造販売及びこれら付随業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

当連結グループは、電子制御機器の製造販売及びこれら付随業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

I 前連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

当連結グループの生産・販売品目は、広範囲かつ多種多様であり、同種の製品についても構造、形式は様でなく、かつ仕様も多岐にわたります。よって外部顧客への売上高を把握することは困難であるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
ジェイアール東日本メカトロニクス(株)	1,152,376	電子制御機器

II 当連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

当連結グループの生産・販売品目は、広範囲かつ多種多様であり、同種の製品についても構造、形式は様でなく、かつ仕様も多岐にわたります。よって外部顧客への売上高を把握することは困難であるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
ジェイアール東日本メカトロニクス(株)	1,760,539	電子制御機器

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】
前連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）
該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）
該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】
前連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）
該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）
該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】
前連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）
該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）
該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有(被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他の関係会社	富士電機 リテイルシステムズ㈱	東京都品川区	9,789	自動販売機等の業務用機器の製造・販売	(被所有) 直接 25.3	当社製品等の販売・役員の兼任	製品等の販売	342,574	売掛金	83,805
主要株主	富士通㈱	神奈川県川崎市中原区	324,625	情報処理システム、通信システム及び電子デバイスの開発・製造・販売並びにこれらを活用したサービスの提供	(被所有) 直接 10.0 間接 5.6	当社製品等の販売	製品等の販売	529,048	売掛金	106,702

(2) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有(被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
非連結子会社	㈱高見沢メックス	長野県佐久市	10	電子機器設計、製造	(所有) 直接 100	当社製品等の製造	部材等の仕入	419,740	買掛金	36,092

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれておりません。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

部材の仕入・製品の販売価格等は一般的取引条件を勘案して決定しております。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有(被所有) 割合 (%)	関連当事 者との関 係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他の 関係会社	富士電機 ㈱	神奈川県 川崎市川崎 区	47,586	電力、官公需、交 通、産業分野の社 会インフラ向けプ ラント・システム の製造及び販売	(被所有) 直接 25.3	当社製品 等の販売	製品等の 販売	190,436	売掛金	222,493
その他の 関係会社	富士電機 リテイル システムズ ㈱	東京都 品川区	9,789	自動販売機等の業 務用機器の製造・ 販売	(被所有) 直接 25.3	当社製品 等の販 売・役員 の兼任	製品等の 販売	197,804	売掛金	111,523
主要株主	富士通㈱	神奈川県 川崎市中原 区	324,625	情報処理システ ム、通信システム 及び電子デバイ スの開発・製造・販 売並びにこれら を活用したサービ スの提供	(被所有) 直接 10.0 間接 5.6	当社製品 等の販売	製品等の 販売	438,430	売掛金	239,623

(2) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有(被所有) 割合 (%)	関連当事 者との関 係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
非連結子 会社	㈱高見沢 メックス	長野県 佐久市	10	電子機器設計、製 造	(所有) 直接 100	当社製品 等の製造	部材等の 仕入	444,372	買掛金	66,707

- (注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれておりません。
2. 取引条件及び取引条件の決定方針等
部材の仕入・製品の販売価格等は一般的取引条件を勘案して決定しております。
3. 富士電機リテイルシステムズ㈱は、平成24年10月1日付で、合併により関連当事者に該当しなくなったため、関連当事者であった期間の取引金額及び、関連当事者に該当しなくなった時点での期末残高を記載しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	162円17銭	172円92銭
1株当たり当期純利益金額	17円04銭	8円04銭

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
当期純利益(千円)	153,202	72,336
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(千円)	153,202	72,336
普通株式の期中平均株式数(株)	8,993,136	8,991,733

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	4,308,500	4,509,000	1.6	—
1年以内に返済予定の長期借入金	32,000	84,000	1.7	—
1年以内に返済予定のリース債務	154,019	226,070	2.9	—
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	68,000	52,000	1.5	平成26年
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	462,853	610,350	2.0	平成26年～31年
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	5,025,372	5,481,420	—	—

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びリース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	52,000	—	—	—
リース債務	198,984	154,663	130,822	79,225

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	1,586,655	3,579,955	5,829,440	9,886,812
税金等調整前四半期(当期)純利益金額又は税金等調整前四半期純損失金額(△)(千円)	△300,085	△535,072	△677,650	68,567
四半期(当期)純利益金額又は四半期純損失金額(△)(千円)	△220,224	△414,111	△572,758	72,336
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額(△)(円)	△24.49	△46.05	△63.70	8.04

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額(△)(円)	△24.49	△21.56	△17.64	71.74

2 【財務諸表等】
 (1) 【財務諸表】
 ① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,559,706	2,061,184
受取手形	※3 250,518	※3 224,749
売掛金	※1 4,342,771	※1 3,926,857
リース投資資産	※1 125,623	※1 120,674
商品及び製品	400,109	270,387
仕掛品	507,181	510,383
原材料及び貯蔵品	366,566	344,522
前払費用	31,522	28,844
繰延税金資産	144,137	133,165
短期貸付金	※1 407,000	※1 246,000
その他	51,938	71,613
流動資産合計	8,187,075	7,938,382
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,621,897	1,621,565
減価償却累計額	△1,092,120	△1,114,519
建物（純額）	529,777	507,045
構築物	70,376	89,313
減価償却累計額	△65,564	△65,878
構築物（純額）	4,812	23,435
機械及び装置	114,850	115,119
減価償却累計額	△108,250	△108,476
機械及び装置（純額）	6,599	6,642
車両運搬具	3,240	1,958
減価償却累計額	△3,078	△1,860
車両運搬具（純額）	162	97
工具、器具及び備品	3,709,562	3,815,660
減価償却累計額	△3,354,776	△3,432,121
工具、器具及び備品（純額）	354,786	383,539
土地	755,972	755,972
リース資産	67,368	64,749
減価償却累計額	△4,213	△15,682
リース資産（純額）	63,154	49,067
有形固定資産合計	1,715,264	1,725,800
無形固定資産		
ソフトウェア	8,671	8,369
電話加入権	5,976	5,976
その他	79	72
無形固定資産合計	14,726	14,417
投資その他の資産		
リース投資資産	230,217	144,719
投資有価証券	320,784	319,658
関係会社株式	100,000	100,000
敷金及び保証金	235,603	243,180
破産更生債権等	693	—

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
繰延税金資産	11,938	2,455
貸倒引当金	△11,333	△10,740
投資その他の資産合計	887,903	799,274
固定資産合計	2,617,895	2,539,491
資産合計	10,804,970	10,477,873
負債の部		
流動負債		
支払手形	※3 637,106	※3 540,674
買掛金	※1 1,696,218	※1 1,461,669
短期借入金	3,912,500	3,962,500
1年内返済予定の長期借入金	32,000	32,000
リース債務	115,112	118,472
未払金	144,699	143,775
未払費用	158,323	171,357
未払法人税等	14,527	18,680
前受金	26,128	4,526
預り金	14,185	17,363
賞与引当金	69,437	58,529
流動負債合計	6,820,239	6,529,548
固定負債		
長期借入金	68,000	36,000
リース債務	281,871	181,108
退職給付引当金	1,863,501	1,884,999
役員退職慰労引当金	112,947	109,307
資産除去債務	974	849
固定負債合計	2,327,294	2,212,265
負債合計	9,147,534	8,741,814
純資産の部		
株主資本		
資本金	700,700	700,700
資本剰余金		
資本準備金	722,424	722,424
資本剰余金合計	722,424	722,424
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	259,258	290,242
利益剰余金合計	259,258	290,242
自己株式	△41,359	△41,359
株主資本合計	1,641,023	1,672,006
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	16,412	64,052
評価・換算差額等合計	16,412	64,052
純資産合計	1,657,436	1,736,059
負債純資産合計	10,804,970	10,477,873

②【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
売上高	※1 8,547,869	※1 8,248,634
売上原価		
商品及び製品期首たな卸高	450,827	400,109
当期商品仕入高	765,978	734,886
当期製品製造原価	5,614,685	5,463,727
合計	6,831,490	6,598,723
他勘定振替高	※2 37,601	※2 84,368
商品及び製品期末たな卸高	400,109	270,387
売上原価合計	※3 6,393,779	※3 6,243,967
売上総利益	2,154,090	2,004,667
販売費及び一般管理費	※4,5 2,030,940	※4,5 1,965,390
営業利益	123,149	39,276
営業外収益		
受取利息	7,947	3,780
受取配当金	7,225	7,055
不動産賃貸料	※6 14,322	※6 13,756
補助金収入	—	49,997
その他	15,456	9,569
営業外収益合計	44,951	84,160
営業外費用		
支払利息	68,502	60,841
不動産賃貸費用	12,199	11,158
その他	2,477	3,092
営業外費用合計	83,179	75,092
経常利益	84,921	48,343
特別利益		
固定資産売却益	—	346
投資有価証券売却益	—	31,126
特別利益合計	—	31,472
特別損失		
固定資産除売却損	※7 3,979	※7 5,620
特別損失合計	3,979	5,620
税引前当期純利益	80,941	74,195
法人税、住民税及び事業税	9,100	13,800
法人税等調整額	20,599	2,437
法人税等合計	29,699	16,237
当期純利益	51,242	57,958

【製造原価明細書】

		前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)		当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	
区分	注記 番号	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
I 材料費	※1	4,274,705	66.6	3,951,969	65.6
II 労務費		1,562,286	24.4	1,547,996	25.7
III 経費		578,025	9.0	523,750	8.7
当期総製造費用		6,415,017	100.0	6,023,716	100.0
期首仕掛品たな卸高		257,910		507,181	
合計		6,672,928		6,530,898	
期末仕掛品たな卸高		507,181		510,383	
他勘定振替高	※2	551,061		556,787	
当期製品・半製品製造原価		5,614,685		5,463,727	

(注) ※1 主な内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (千円)	当事業年度 (千円)
外注加工費	157,442	90,214
減価償却費	129,921	142,636

※2 他勘定振替の内容は、次のとおりであります。

項目	前事業年度 (千円)	当事業年度 (千円)
試験研究費	520,300	502,326
工具器具備品	7,097	17,497
雑費	13,487	31,173
その他	10,175	5,789
計	551,061	556,787

(原価計算の方法)

個別原価計算を採用しております。

③【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	700,700	700,700
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	700,700	700,700
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	722,424	722,424
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	722,424	722,424
資本剰余金合計		
当期首残高	722,424	722,424
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	722,424	722,424
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		
当期首残高	234,997	259,258
当期変動額		
剰余金の配当	△26,981	△26,975
当期純利益	51,242	57,958
当期変動額合計	24,261	30,983
当期末残高	259,258	290,242
利益剰余金合計		
当期首残高	234,997	259,258
当期変動額		
剰余金の配当	△26,981	△26,975
当期純利益	51,242	57,958
当期変動額合計	24,261	30,983
当期末残高	259,258	290,242
自己株式		
当期首残高	△41,021	△41,359
当期変動額		
自己株式の取得	△338	—
当期変動額合計	△338	—
当期末残高	△41,359	△41,359
株主資本合計		
当期首残高	1,617,100	1,641,023
当期変動額		
剰余金の配当	△26,981	△26,975
当期純利益	51,242	57,958
自己株式の取得	△338	—
当期変動額合計	23,922	30,983
当期末残高	1,641,023	1,672,006

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	△5,049	16,412
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	21,462	47,639
当期変動額合計	21,462	47,639
当期末残高	16,412	64,052
評価・換算差額等合計		
当期首残高	△5,049	16,412
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	21,462	47,639
当期変動額合計	21,462	47,639
当期末残高	16,412	64,052
純資産合計		
当期首残高	1,612,051	1,657,436
当期変動額		
剰余金の配当	△26,981	△26,975
当期純利益	51,242	57,958
自己株式の取得	△338	—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	21,462	47,639
当期変動額合計	45,385	78,622
当期末残高	1,657,436	1,736,059

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 商品・製品

個別原価法及び総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(2) 半製品・原材料

総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(3) 仕掛品

個別原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(4) 貯蔵品

最終仕入原価法

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法）を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～46年

機械及び装置 7～12年

工具器具備品 2～20年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理することとしております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(損益計算書関係)

前事業年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「受取補償金」は、営業外収益の総額の100分の10以下となったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「受取補償金」に表示していた11,692千円は、「その他」として組み替えております。

(貸借対照表関係)

※1. 関係会社に対する主な資産・負債

各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
売掛金	278,878千円	439,403千円
リース投資資産	324,414	226,408
短期貸付金	407,000	246,000
買掛金	180,620	156,044

2. 偶発債務

(1) 債務保証

次の連結子会社について、金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

前事業年度 (平成24年3月31日)		当事業年度 (平成25年3月31日)	
株高見沢サービス	396,000千円	株高見沢サービス	614,500千円
計	396,000千円	計	614,500千円

※3. 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、当期の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。期末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
受取手形	43,172千円	9,620千円
支払手形	125,278	57,601

(損益計算書関係)

※1. 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
関係会社への売上高	642,751千円	719,825千円

※2. 他勘定振替高の内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
工具器具備品	21,177千円	62,613千円
未収金(有償支給)	26,948	24,215
その他	△10,524	△2,460
計	37,601	84,368

※3. 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
	13,339千円	9,507千円

※4. 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度約52%、当事業年度49%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度約48%、当事業年度51%であります。

販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
給料	642,521千円	653,976千円
法定福利費	107,609	112,058
退職給付費用	57,274	56,078
役員退職慰労引当金繰入額	17,663	19,339
賞与引当金繰入額	26,494	22,757
減価償却費	18,390	14,682
試験研究費	520,902	502,347
運賃荷具費	119,055	68,369

※5. 研究開発費の総額

一般管理費に含まれる研究開発費

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
	520,902千円	502,347千円

※6. 関係会社との取引に係る営業外収益の内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
不動産賃貸料	14,322千円	13,756千円

※ 7. 固定資産除売却損の内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月 31日)
建物	668千円	376千円
工具器具備品	3,311	5,189
車両運搬具	—	54
計	3,979	5,620

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株 式数 (株)	当事業年度増加株 式数 (株)	当事業年度減少株 式数 (株)	当事業年度末株式 数 (株)
普通株式	56,310	1,957	—	58,267
合計	56,310	1,957	—	58,267

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加1,957株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月 31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株 式数 (株)	当事業年度増加株 式数 (株)	当事業年度減少株 式数 (株)	当事業年度末株式 数 (株)
普通株式	58,267	—	—	58,267
合計	58,267	—	—	58,267

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

①リース資産の内容

有形固定資産

主として、ネットワーク回線及びメールサーバ（工具器具備品）であります。

②リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

	前事業年度（平成24年3月31日）		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具器具備品	49,651千円	47,831千円	1,820千円
ソフトウェア	10,076	9,182	893
合計	59,727	57,014	2,713

	当事業年度（平成25年3月31日）		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具器具備品	－千円	－千円	－千円
ソフトウェア	－	－	－
合計	－	－	－

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
1年内	2,856千円	－千円
1年超	－	－
合計	2,856	－

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支払利息相当額及び減損損失

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
支払リース料	8,913千円	2,959千円
減価償却費相当額	8,048	2,713
支払利息相当額	166	22

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(5) 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

2. 転リース取引に該当し、かつ、利息相当額控除前の金額で貸借対照表に計上している額

(1) リース債権及びリース投資資産

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
流動資産	99,984千円	103,581千円
投資その他の資産	230,217	144,719

(2) リース債務

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
流動負債	100,681千円	104,946千円
固定負債	229,444	142,567

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

(有価証券関係)

前事業年度(平成24年3月31日)及び当事業年度(平成25年3月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額100,000千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税等	5,074千円	5,172千円
賞与引当金	26,393	22,247
一括償却資産損金不算入	1,641	3,161
役員退職慰労引当金	40,255	38,957
退職給付引当金	664,911	673,094
税務上の繰越欠損金	128,892	118,375
棚卸資産評価損	103,029	96,308
投資有価証券評価損	59,942	66,091
貸倒引当金	3,900	3,828
その他	17,767	14,103
繰延税金資産小計	1,050,223	1,041,336
評価性引当額	△892,901	△886,507
繰延税金資産合計	157,322	154,829
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	941	18,959
資産除去債務に対応する除去費用	305	250
繰延税金負債合計	1,246	19,209
繰延税金資産(負債)の純額	156,076	135,620

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
法定実効税率	41.0%	38.0%
(調整)		
住民税均等割等	11.2	12.4
交際費等永久に損金に算入されない項目	6.5	6.5
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△1.5	△1.6
評価性引当額の増減	△35.7	△30.7
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	15.3	—
その他	△0.1	△2.7
税効果会計適用後の法人税等の負担率	36.7	21.9

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

1. 当該資産除去債務の概要

駐輪場システム及び営業所の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から30年と見積り、割引率は2.266%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

3. 当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
期首残高	952千円	974千円
時の経過による調整額	21	19
資産除去債務の履行による減少額	—	△143
期末残高	974	849

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	184円33銭	193円07銭
1株当たり当期純利益金額	5円70銭	6円45銭

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
当期純利益 (千円)	51,242	57,958
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益 (千円)	51,242	57,958
普通株式の期中平均株式数 (株)	8,993,136	8,991,733

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

投資有価証券	その他有価証券	銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)
		(株)常陽銀行	120,000	63,240
京成電鉄(株)	48,153	48,298		
I D E C(株)	55,000	45,705		
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	70,244	31,118		
(株)みずほフィナンシャルグループ (優先株式)	50,000	24,219		
西日本旅客鉄道(株)	5,000	22,575		
関西高速鉄道(株)	400	20,000		
(株)八十二銀行	35,000	19,915		
京阪電気鉄道(株)	26,445	11,054		
大阪外環状鉄道(株)	200	10,000		
東京急行電鉄(株)	12,276	8,704		
(株)ホクト	150	7,500		
(株)みずほフィナンシャルグループ (普通株式)	28,400	5,651		
その他(3銘柄)	1,021	1,678		
計		452,291	319,658	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	1,621,897	2,350	2,682	1,621,565	1,114,519	24,866	507,045
構築物	70,376	18,937	—	89,313	65,878	314	23,435
機械及び装置	114,850	269	—	115,119	108,476	226	6,642
車両運搬具	3,240	—	1,282	1,958	1,860	—	97
工具、器具及び備品	3,709,562	157,347	51,248	3,815,660	3,432,121	123,114	383,539
土地	755,972	—	—	755,972	—	—	755,972
リース資産	67,368	17,691	20,310	64,749	15,682	11,468	49,067
有形固定資産計	6,343,267	196,595	75,523	6,464,340	4,738,539	159,990	1,725,800
無形固定資産							
ソフトウェア	21,191	3,083	8,455	15,819	7,450	3,385	8,369
電話加入権	5,976	—	—	5,976	—	—	5,976
その他	432	—	288	144	72	7	72
無形固定資産計	27,599	3,083	8,743	21,939	7,522	3,392	14,417

(注) 1. 当期増減額のうち主なものは、次のとおりであります。

工具、器具及び備品	増加額 (千円)	金型・試験用機器等の設備	157,347
-----------	----------	--------------	---------

2. 有形固定資産の当期償却額のうち782千円は、不動産賃貸に係る償却額であるため営業外費用として計上しております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	11,333	100	693	—	10,740
賞与引当金	69,437	58,529	69,437	—	58,529
役員退職慰労引当金	112,947	19,339	22,979	—	109,307

(2) 【主な資産及び負債の内容】

① 流動資産

1) 現金及び預金

区分	金額 (千円)
現金	35,589
預金	
当座預金	920,247
普通預金	95,347
通知預金	890,000
定期預金	120,000
小計	2,025,595
合計	2,061,184

2) 受取手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額 (千円)
(株)JR西日本テクシア	73,096
(株)ユリ電気商会	28,737
三菱プレシジョン(株)	24,442
(株)浅沼組	24,130
寺岡ファシリティーズ(株)	13,719
その他	60,622
合計	224,749

(ロ) 期日別内訳

期日別	金額 (千円)
平成25年4月	84,046
5月	75,992
6月	27,264
7月	22,623
8月	1,549
9月	13,272
合計	224,749

3) 売掛金

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額 (千円)
東京地下鉄株	312,993
日本電気株	283,813
株 J R 西日本テクシア	268,252
気象庁	251,505
富士通株	239,623
その他	2,570,668
合計	3,926,857

(ロ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	当期末残高 (千円)	回収率 (%)	滞留期間 (日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2} - \frac{(B)}{365}$
4,342,771	8,637,970	9,053,884	3,926,857	69.7	174.7

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記当期発生高には消費税等が含まれております。

4) 商品及び製品

品目	金額 (千円)
商品	
交通システム機器	—
メカトロ機器	—
特機システム機器	1,401
小計	1,401
製品	
交通システム機器	—
メカトロ機器	31,658
特機システム機器	52,548
小計	84,207
半製品	
交通システム機器	49,009
メカトロ機器	98,470
特機システム機器	37,297
小計	184,778
合計	270,387

5) 仕掛品

品目	金額 (千円)
交通システム機器	196,610
メカトロ機器	199,380
特機システム機器	114,392
合計	510,383

6) 原材料及び貯蔵品

品目	金額 (千円)
原材料	
購入部品	211,197
加工部品	51,163
ケーブル部品	32,859
その他	34,170
小計	329,391
貯蔵品	
補助材料	7,641
技術研究	131
梱包材料	613
その他	6,745
小計	15,131
合計	344,522

7) 短期貸付金

相手先	金額 (千円)
(株)高見沢サービス	246,000
合計	246,000

② 流動負債

1) 支払手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額 (千円)
東京計器(株)	98,154
オムロンフィールドエンジニアリング九州(株)	42,351
(株)ツガワ	35,915
(株)デンケン	30,814
日本金銭機械(株)	28,448
その他	304,991
合計	540,674

(ロ) 期日別内訳

期日別	金額 (千円)
平成25年 4月	77,727
5月	136,535
6月	173,213
7月	97,180
8月	56,017
合計	540,674

2) 買掛金

相手先	金額 (千円)
共栄工業(株)	112,981
(株)高見沢サービス	89,336
(株)ツジデ	88,782
(株)デンケン	79,577
(株)ホクト	68,862
その他	1,022,128
合計	1,461,669

3) 短期借入金

借入先	金額 (千円)
(株)みずほ銀行	1,250,000
(株)りそな銀行	750,000
(株)三菱東京UFJ銀行	462,500
その他	1,500,000
合計	3,962,500

③ 固定負債

1) 退職給付引当金

区分	金額 (千円)
退職給付債務	2,331,447
未認識数理計算上の差異	△131,890
年金資産	△314,557
合計	1,884,999

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	_____
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行います。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL http://www.tacy.co.jp
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有していません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第43期）（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）平成24年6月29日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成24年6月29日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第44期第1四半期）（自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日）平成24年8月14日関東財務局長に提出

（第44期第2四半期）（自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日）平成24年11月14日関東財務局長に提出

（第44期第3四半期）（自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日）平成25年2月14日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成24年7月2日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

平成24年10月1日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号（主要株主の異動）に基づく臨時報告書であります。

平成25年4月25日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号及び19号（財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象）に基づく臨時報告書であります。

(5) 有価証券報告書の訂正報告書及び確認書

平成24年7月13日関東財務局長に提出

事業年度（第43期）（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）の有価証券報告書に係る訂正報告書及びその確認書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年6月27日

株式会社高見沢サイバネティックス
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉澤 祥次 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 由良 知久 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 正広 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社高見沢サイバネティックスの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社高見沢サイバネティックス及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社高見沢サイバネティックスの平成25年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社高見沢サイバネティックスが平成25年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成25年6月27日

株式会社高見沢サイバネティックス

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉澤 祥次 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 由良 知久 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 正広 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社高見沢サイバネティックスの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第44期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社高見沢サイバネティックスの平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。